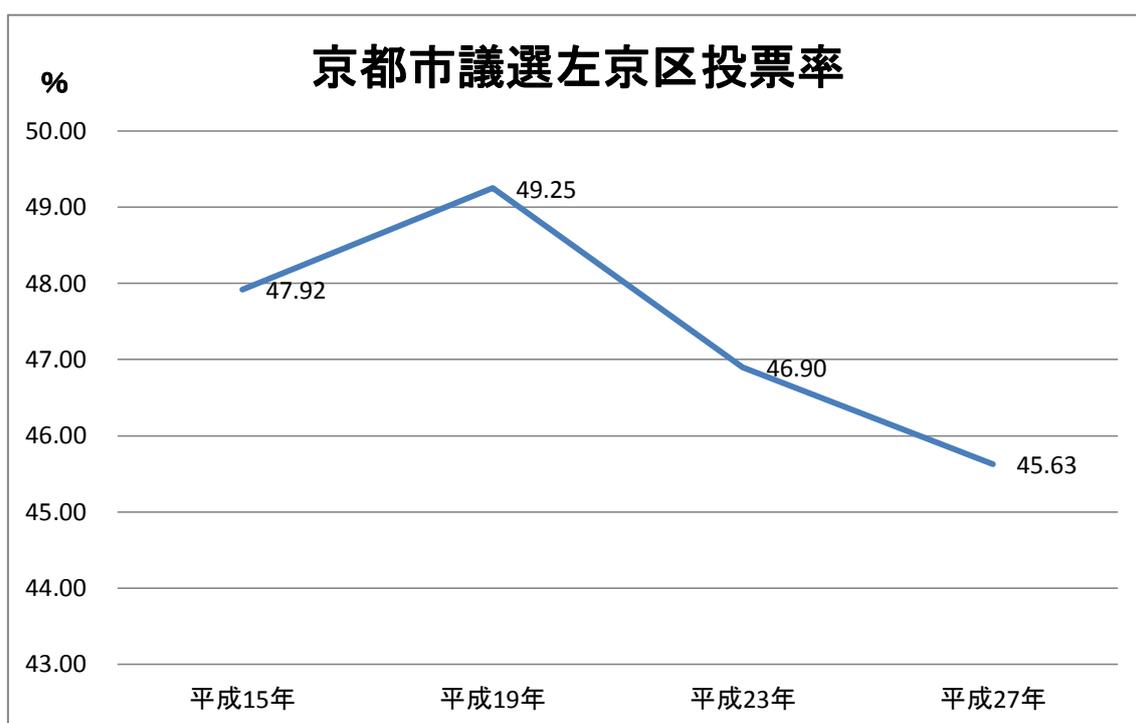


数字で見る京都市議選左京区の投票行動

投票率・投票者数・得票数

左京区の投票率は前回（平成23年）と比べて1.27%減り実質1917人の投票者数減となった。前回の定員9から8と1減の選挙区になり投票者数を定員で割る一人あたりの平均得票数は $56,148 \div 8$ で7,019票。前回は $58,065 \div 9$ で6,451票なので投票者数と定員が減ったことで当選のハードルはかなり高くなったことになる。今回の当選者の最高得票は7,130票、最低得票は3,825票だった（前回最高=12,529票、最低=3,658票）。



個人別得票数・率と党派別得票数・率

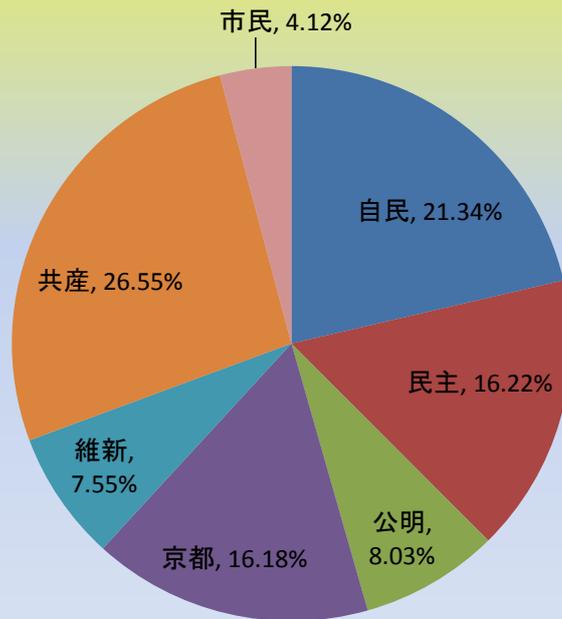
定員8人に対して13人の立候補があった。各個人の票数は下記の通り（ ）内は前回得票数との比較。同じ候補者のみ比較した。（○=増、△=減）

1・村山祥栄（京都）	7,130	（△5,399）	当選	
2・加藤あい（共産）	5,596	（○405）	当選	
3・樋口英明（共産）	5,288	（○1,487）	当選	
4・隠塚 功（民主）	5,155	（△247）	当選	
5・大西ケンジ（自民）	4,929	（○1,096）	当選	大西均の後継？
6・国本友利（公明）	4,445	（△457）	当選	

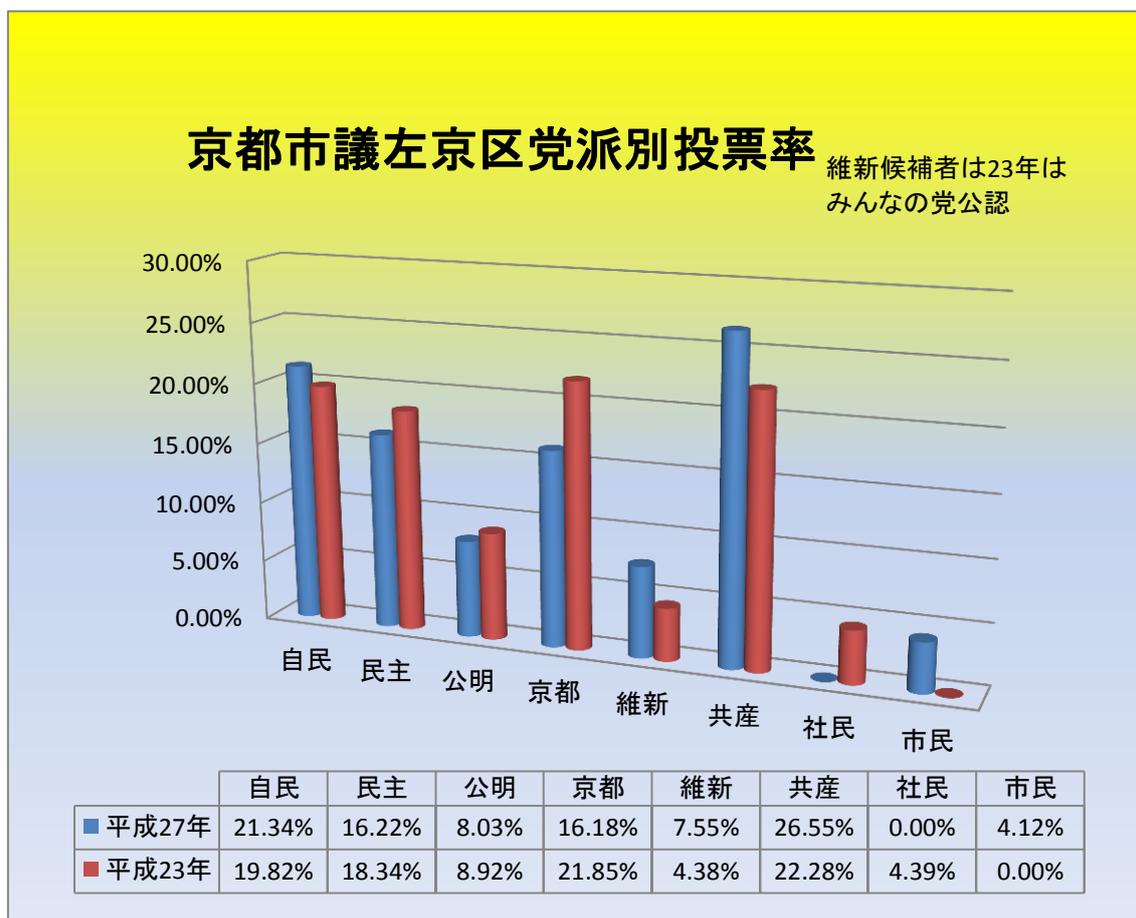
7・宇佐美賢一（維新）	4,179（○2,282）	当選	前回みんなの党
8・鈴木マサホ（民主）	3,825（△1,290）	当選	
9・富樫 豊（共産）	3,814（○31）	落選	
10・牧野友彦（自民）	3,601（△124）	落選	
11・桜井康広（自民）	3,284（△523）	落選	
12・広海ロクロー（市民）	2,282	落選	
13・疋田 大（京都）	1,829	落選	

共産の富樫は票数を伸ばしたものの定員減の影響をもろに受けて落選となった。京都の二人合わせて 8,959 は前回比△3,156 票となって大幅減。この選挙での会派別得票の参考に下のグラフを見て欲しい。

平成27年京都市議左京区党派別得票率



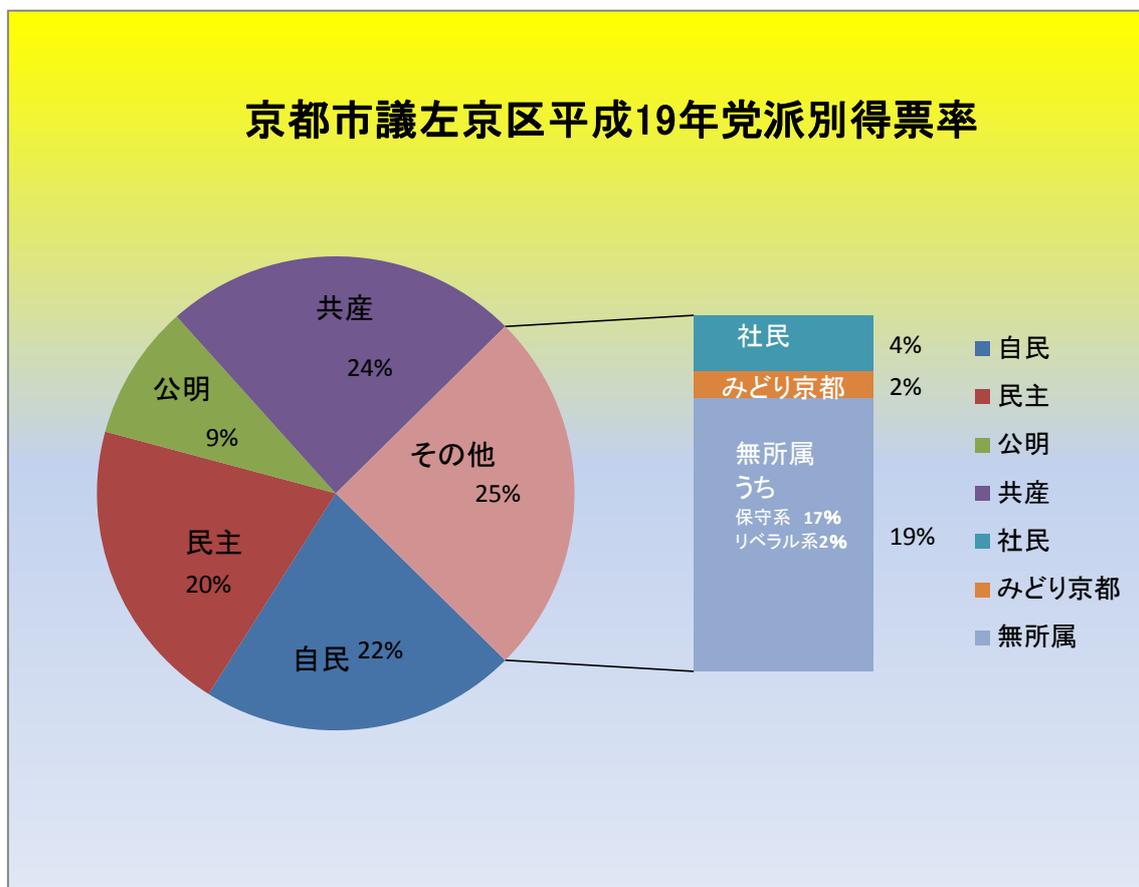
これを前回選挙の得票率と比べてみると共産の得票率は4.3%も増えたのに議員数が1人減った。一方自民も1.52%減り議員も1人減ったことになる。逆に民主党が2.14%も減らしたのに議員は現状を維持したという結果だった。京都党は代表はトップ当選で段違いの票数を得たものの新人は最下位に沈んだ。党としても5.67%減となった。京都市全体で1人増えたことを考えると左京区の選挙事情が民主党の得票数と拮抗しているだけに読みにくいものにして証ともいえる。他に公明票も減ったが投票者数の減から来るのだろうか。前回みんなの党の維新候補は国政政党としての強さを見せたともいえる。



ところで筆者も支援した市民ネットワーク・きょうとの候補者広海ロクローの得票数が前回社民党の候補者の得票0.27%及ばなかった。脱原発など比較的政策の似ている社民党の得票にして237票少なかった。前回投票率を今回並みに引き下げて計算すると154票である。ところがこの前回の選挙よりも候補者が15人で党派も多くあった19年選挙と比べてみると左京区のいわゆるリベラル系党派・候補者の推移を読むことができる。19年選挙には自民3、民主3、

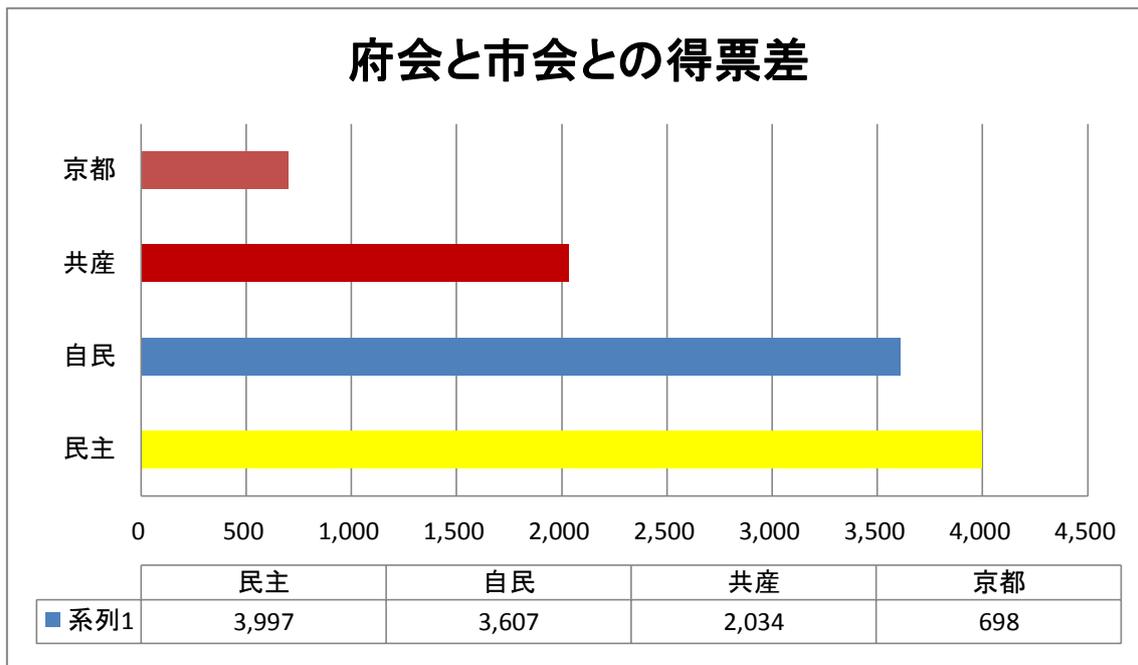
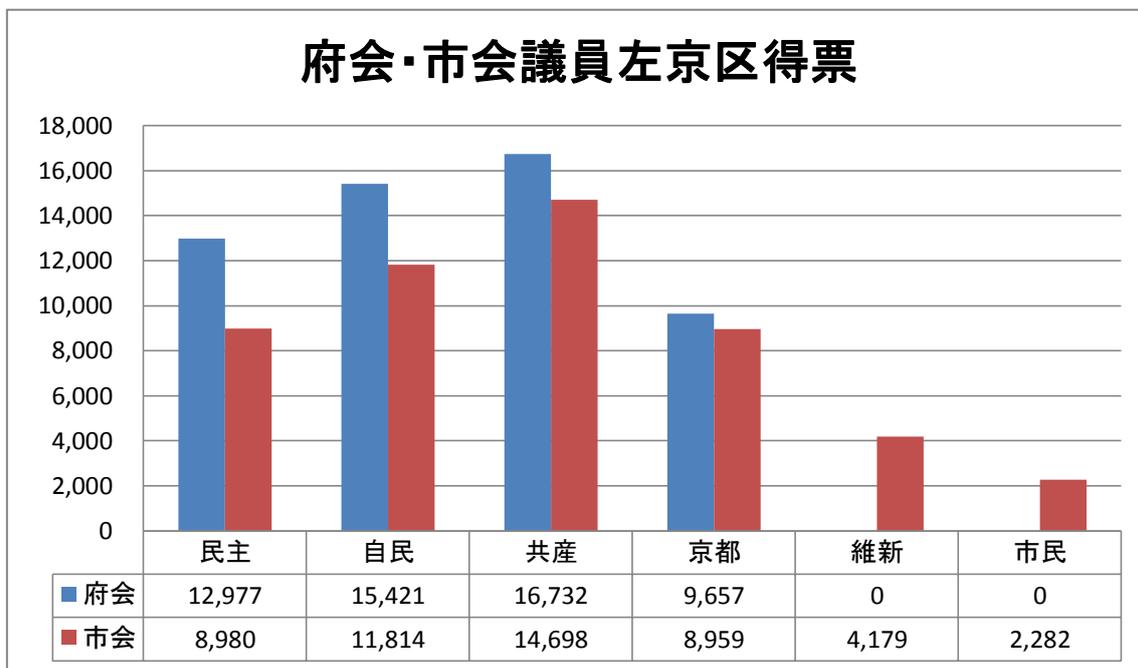
公明1、共産3、京都（当時無所属）1、社民1、みどり京都1、保守系無所属1、リベラル系無所属1という選挙戦だった。共産・社民・みどり京都・無所属の1人を加えた得票率は31.99%だった。あえて保守系と当方が見ている自民・公明・維新・京都は47.9%となっている。ここに民主党の20.26%が入ると圧倒的保守地盤となってしまう。民主党に保守とリベラル系政策が混在していることを考えるとこの党はとにかく姿勢をはっきりさせないと今回のように左京区では持ちこたえたように見えるが京都市全体でのジリ貧となり極論だがいずれは消えゆくのではないかと推測できる。一度市政野党として出直してみてもどうかと提言したい。

広海ロクローの支持層と思われる社民・みどり・無所属を合わせても7.8%しかない状況では市民ネットの挑戦での当選は難しいという結果でもある。投票率が下がり続けている現況での対策が求められる。



それでは今回の市民ネット・きょうとが結成されて当初無所属として立候補予定だった広海ロクローの票はどこから集めたのだろうか。比較となるのが同時

に投票された左京区の府会議員選挙の得票である。こちらも1減で定数3となり前回共産1、自民1、民主2という結果を生んだ（この当時猛烈な民主逆風の中でのこと）。

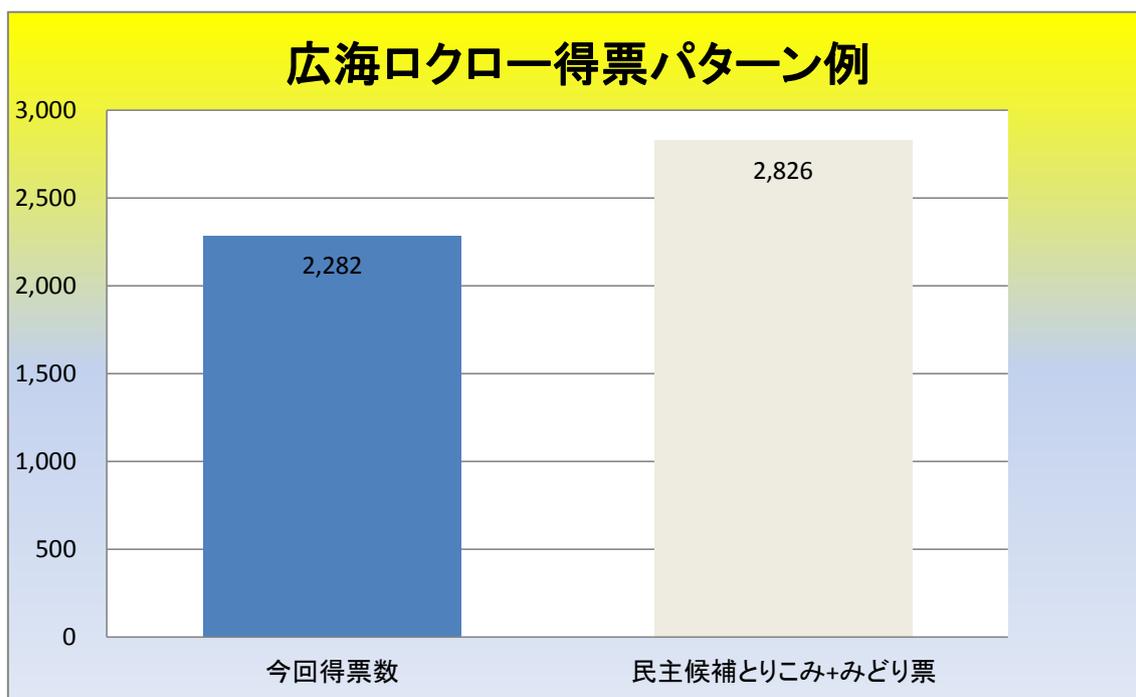


市民ネットの票が維新や自民・京都に流れることはまず考えられない。おそらく共産と民主に分散したと思われる。一方維新の票は国政での動きからすると民主により多く流れた可能性は否定できない。しかし保守的な側面を考えると

自民・京都にも分散したとしてもおかしくない。逆にこの分析からするとロクロー票は同じ市民派としてをキャッチコピーとした民主党の鈴木マサホが前回得票を 1300 票あまり減らした分を吸収した可能性は大きい。事実私も一貫して友人の彼に投票してきたが今回は広海に投票した。一方みどり京都の前々の 1,168 票もロクロー票の可能性が高い。この時の鈴木票は奇しくも 3,704 票で今回の得票に近い。鈴木票の目減り分とみどりの票で合計 2,368 票である。かなり 2,282 票に近い数字ではある。これは参院比例の緑の党 1,759 票の得票を得た長谷川羽衣子が今回市民ネットを全面支援しているので基礎票として読むことは可能である。問題は前々回 2,388 票の社民票である。社民は直近の衆院選挙比例で 1,526 票であった。しかしいずれにしてもこれでは勝てないのは明白だろう。基礎票が到底不足しているという現実がのしかかる。なお、今回応援演説にも来てくれた山本太郎となかまたちの生活の党は参院比例で 690 票、衆院比例で 987 票の投票があるものの地方選での投票の行方を読めない。

もはや市民派は京都党も名乗っていて選挙の時にその違いをすべての広報媒体で訴え、候補者もしっかりと訴えないと有権者は理解できない側面があると思っ間違いないだろう。さらに脱原発の訴えはそれこそ自公京都を除く各派の言うところでもあるのでその訴えの差別化は至難の業かもしれない。

一方共産票は固定化していて広海に流れたという数字は探しても見当たらない。また富樫豊の落選は広海に流れた結果という見方も可能だが富樫自身は得票を前回比プラスなので検証は難しい。



市民ネット左京バージョン写真集 (撮影筆者)







